

佐世保市財政白書

～平成19年度版～

佐世保市の財政事情を説明します!!



「佐世保市財政白書～平成19年度版～」作成にあたって

本誌「佐世保市財政白書～平成19年度版～」は平成18年度の普通会計決算を基とし、佐世保市の財政事情についてわかりやすく市民の皆様を紹介するものです。例年作成していた「佐世保市財政白書」の構成や表現を読みやすく、わかりやすい表現になるよう一部発展的に改訂しています。

第1部「佐世保市の決算概況」では、平成18年度の決算の概要を示しながら、わかりやすく読めるようにグラフ等を用い、難しい財政用語などは極力注釈を加え、これまで、佐世保市の財政について、あまり聞いたことがなかった方々にもご理解いただけるよう、平易な表現に努めています。

第2部「平成18年度の佐世保市財政」では、佐世保市の決算の状況を従来の財政白書を踏まえ第1部よりも詳細に広範にご理解いただけるよう、作成いたしました。

第3部「佐世保市財政白書資料編」では、過去の決算状況にかかる数値等も盛り込み、経年変化や、当該年度のより詳細な数値等確認できるよう作成しています。

平成18年度における本市決算は、国の三位一体の改革の影響により厳しい状況にあって、継続的な事業の見直しに努めた結果、剰余金を確保し、堅実な財政運営を行うことができましたが、予断を許さない状況です。

そういった、佐世保市の「今」の財政状況について、ご理解が深まるよう、本誌「佐世保市財政白書～平成19年度版～」がお役に立てば幸いです。

平成19年9月28日

佐世保市財務部財政課

～ 目 次 ～

第一部 佐世保市の決算概況	・・・・・・・・	1
普通会計の決算	・・・・・・・・	2
1 はじめに	・・・・・・・・	3
2 会計とは	・・・・・・・・	3
3 普通会計とは	・・・・・・・・	4
4 予算と決算	・・・・・・・・	6
5 普通会計の決算	・・・・・・・・	8
第二部 平成18年度の佐世保市財政	・・・・・・・・	19
1 佐世保市財政の状況	・・・・・・・・	20
2 財源の状況(歳入)	・・・・・・・・	26
3 経費の内容(目的別歳出)	・・・・・・・・	30
4 経費の構造(性質別歳出)	・・・・・・・・	35
第三部 佐世保市財政白書 資料編	・・・・・・・・	43

第一部

佐世保市の決算概況



普通会計の決算

平成18年度の佐世保市の一年間の決算は・・・

歳入1,031億円 - 歳出990億円 = 41億円の黒字

翌年度に持ち越す経費10億円を差し引くと・・・

31億円の黒字となっています。

平成18年度末における

地方債残高（借金）は1,234億円

市民一人あたり48万円

積立金残高（貯金）は 133億円

市民一人あたり 5万円

となっています。

1 はじめに

佐世保市役所では、市民の暮らしを支えるためにいろんな仕事をしています。

保育所や学校の運営、道路をつくる、ごみの収集をする・・・などなど
さて、今年1年間この仕事にかかったお金がどのくらいかご存じですか？

公営企業含めて全部で2,180億円です。

普通会計では990億円です。

(4ページで詳しく述べますが、本誌ではこの普通会計ベースで述べています。)

出先機関を含め、市役所の各部署で仕事をするのに、いくら収入があって、いくら支出をしたのか(=決算)を、これからいろんな角度から紹介していきます。

2 会計とは

まず「会計」について説明します。市役所のような地方自治体の経理(財布)は、以下の3つに分類されるのが一般的です。

一般会計

高齢者や障がい者のための福祉事業、ごみの収集、道路や公園の整備、学校の運営など、私たちの生活全般に関係する仕事で使ったお金をまとめる財布です。

総務・土木・教育など目的ごとに13の項目に分けて使っています。

これらの事業にかかる経費は、主に私たちが納める「税金」でまかなわれています。

特別会計

介護保険は40歳以上の方が払う介護保険料で、公営住宅は家賃でといったように原則かかった経費が保険料や使用料などの入ってくるお金でまかなわれる事業をまとめて、一般会計とは財布を別にして「特別会計」といいます。

佐世保市は、卸売市場や老人保健医療など13の特別会計を設けています。

公営企業会計

上下水道、交通、病院などの事業は、民間企業と同じようにその事業で収入をあげて、かかる経費をまかなっています。

佐世保市には4つの公営企業会計があります。

このようにそれぞれの性質ごとにお金の管理を行うことで、その収支を明確にしています。

3 普通会計とは

決算において、自分の住んでいる自治体が健全な財政運営を行っているのか、それとも、苦しい財政事情にあるのかをとらえる時、同じ市役所でも、政策の違いや地域の特性に応じ、少しずつ違った使い方や分け方をしているため、簡単に比べることができません。

それでは、他の都市と同じ基準で比較するにはどうしたらいいのでしょうか？

そこで登場するのが「普通会計」という会計区分です。

「普通会計」とは、主に税金など自主的に使えるお金で、何に使ったかを全国統一のルールで計算したもので、そのルールは国が決めています。

他の都市と比較するときは、すべてこの普通会計の数値を用います。本誌「財政白書」は平成18年度の普通会計決算状況を基に説明しています。

なお、佐世保市の会計は概ね次のような体系、区分となります。

～ 佐世保市の会計区分 ～

予 算		決 算
一般会計	総務費、土木費など	普通会計
特 別 会 計	1 住宅事業	普通会計
	2 地域交通体系整備事業	
	3 土地取得事業	
	4 国民健康保険事業	
	5 老人保健医療事業	公営事業会計
	6 介護保険事業	
	7 災害共済事業	
	8 競輪事業	
	9 卸売市場事業	公営企業会計
	10 土地区画整理事業	
	11 交通船事業	
	12 集落排水事業	
公営企業 会計	水道事業会計	公営企業会計
	下水道事業会計	
	交通事業会計	
	病院事業会計	

公営事業会計とは、公営企業と同様に使用料、保険料等でまかなわれている事業で、決算にかかる区分の一つです。

4 予算と決算

佐世保市では、福祉やごみ収集など、いろいろな市民サービスを行っています。が、どんな仕事もお金がなければできませんし、思いつくままに使ってしまうと、とたんに財布が空になってしまいますので、計画を立てながら行わなければなりません。

そこで、私たちが納める税金や国からの補助金などが、1年間にどれくらい入ってきて（歳入）どれくらいのお金を使う（歳出）かを、あらかじめ見積もったのが「予算」であり、「予算」に基づいていくら使ったかというのが「決算」です。

予算は、市長が市役所の各部署で作られた案をまとめて市議会に提出し、市議会で慎重に議論された上で決定されます。また、当初予想し得なかった経費等（台風災害など）が年度途中で発生した場合などは、「補正予算」として、同様の手続きを経て決定されます。

市の決算で何千万円使いました。といってもなかなかピンとこないでしょう。ここで、市の決算を、「させばさんちの家計簿」として、佐世保市の1年間の歳入決算額1,031億円を家族全体の年収が500万円の世帯に見立て、とある家庭（させばさんち）の家計簿を見てみると・・・次ページの表となります。

この表は、佐世保市の主な財源である市税、交付税等を、ある家庭の給料に見立てて計算しています。収入支出の総額に対して、給料やローンの支払いがどれくらいの割合を占めるのか、といった視点で見えていただくと、佐世保市の財政事情（やりくり）も併せて理解していただけるかと思えます。

～ させぼさんちの家計簿～

平成18年4月から平成19年3月までの間の月平均家計（単位：円）

（ 収 入 ）		（ 支 出 ）	
給料	108,700	食費	61,900
パート収入	39,100	医療費	73,000
実家仕送り	192,000	光熱水費	51,400
借金	41,300	車の修理代	2,600
貯金取り崩し	17,400	教育費	38,000
繰越金	18,200	娘への仕送り	33,800
		ローン返済	51,500
		リフォーム	45,800
		貸付金	17,200
		貯金	24,800
合計	416,700	合計	400,000
		余ったお金	16,700
貯金残高	644,900	ローン残高	5,984,000

それぞれの項目は、佐世保市の決算における次の科目を置きかえています。（一部項目略）

- 給料・・・地方税（市民税、固定資産税など）
- パート収入・・・使用料手数料、分担金負担金、財産収入など
- 実家仕送り・・・地方交付税、国・県支出金など
- 食費・・・人件費
- 医療費・・・扶助費
- 娘への仕送り・・・繰出金

この家庭（佐世保市）は総収入のうち給料で足りない分について、親からの支援や借入などでまかなう部分が約6割を占めています。

また、支出面では、食費や医療費が約5割を占め、ローン返済を含めた固定的にかかる経費が支出の約6割にもなります。

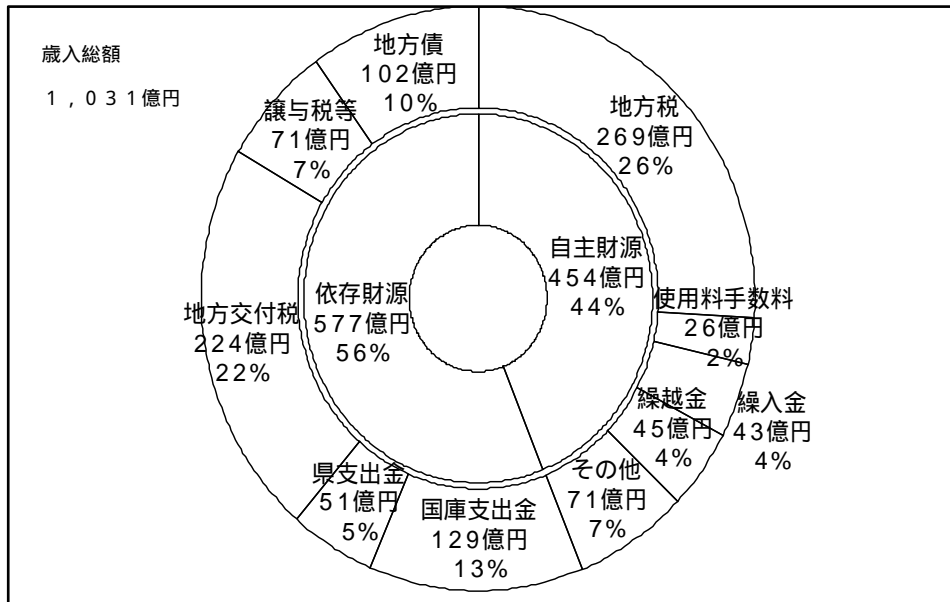
5 普通会計の決算

歳入		歳出	
市税	269 億円	義務的経費	487 億円
地方交付税	224 億円	人件費	178 億円
市債	102 億円	扶助費	182 億円
その他	436 億円	公債費	127 億円
		投資的経費	145 億円
		その他	358 億円
合計(A)	1,031 億円	合計(B)	990 億円
差引(黒字) (A)-(B) = (C)		41 億円	
翌年度への繰り越し(D)		10 億円	
実質的な黒字(C)-(D) = (E)		31 億円	

普通会計の決算は、歳入が1,031億円（前年度比プラス20億円）、歳出が990億円（前年度比プラス24億円）ありました。単純に差し引くと41億円の黒字の計算になりますが、年度中に予定していた工事などが思うように進まなかったため、やむを得ずやり残した分を来年度に持ち越して使う経費（これを「繰越」といいます）が10億円ありました。

これは翌年度に使いますので、差し引いて考えると、実質31億円の黒字（これを実質収支といいます）になります。この黒字は平成19年度に繰り越され、歳入の一部になります。

(1) どんな収入があったの



地方税

私たちが納める税金には、所得に対してかかる「市民税」や、土地や家屋の所得に対してかかる「固定資産税」、たばこの販売にかかる「たばこ税」などがあります。前ページの表のとおり、1年間で269億円の税収がありました。歳入に占める割合が26%と一番大きく、平成17年度にくらべ0.3%増加しています。これは、定率減税の改正などの税制改正により個人市民税が増加したことが主な要因です。

地方交付税

私たちが納める税金には市税のように、佐世保市という自治体に納めるもののほか、国に納める所得税、酒税、消費税などの国税などがあります。

それら国税の一部が、地方自治体の財政力に応じて入ってくるのが「地方交付税」です。本来地方固有の財源ですが、便宜上国が集めた国税の一部を、地方に配分するお金です。

前ページの表のとおり 224 億円の決算でしたが、平成 17 年度よりも 4.5 億円も減少しました。

これは、国の「三位一体の改革」のひとつである、地方交付税改革の影響によるもので、自治体において人件費の削減や事業の見直しといった改革が当然に行われるという前提で、国が自治体へ配分したためです。

地方債

地方債とは、いわゆる借入金のことです。

例えば、公共の施設を建設するとき、工事費や土地の購入などで、莫大な経費がかかります。その全部を税金でまかなうことは到底できませんので、多くは国や県からの補助金にあわせ、借入金でまかっています。

平成 18 年度は 102 億円借りました。

こうして借り入れた佐世保市の借入金の残高は、平成 18 年度末で 1,234 億円にもものぼります。佐世保市の人口は約 26 万人ですから、市民一人あたりに換算すると、48 万円の借金をしている計算になります。

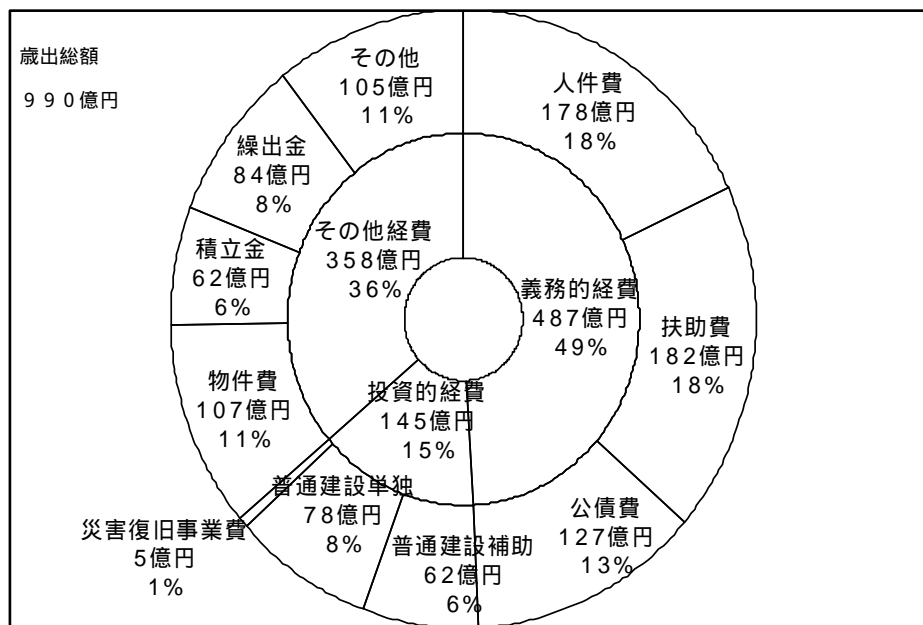
昨年よりも若干減っていますが、10 年前の平成 8 年度に比べ残高は 1.6 倍になっていて、市税の収入はほぼ同額で、依然として高い水準となっています。

その他の歳入

上で説明した歳入以外をまとめると、436 億円の収入がありました。主なものは以下のとおりです。

国庫支出金	129 億円
使用料及び手数料	26 億円など

(2) どんない経費に使ったの



義務的経費

「人件費」・・・市役所で働く職員の給料などの経費

「扶助費」・・・生活に困窮する人の保障や児童福祉などの経費

「公債費」・・・公共施設を建設するときの借入金の返済

これらをまとめて「義務的経費」と呼びます。合計487億円で昨年度よりも1.5億円増加していますが、歳出全体に占める割合で見ると49%と非常に高い割合を示しています。

「扶助費」の増加などが主な原因で、この義務的経費は、今後増加していくと考えられています。

さらにこの義務的経費は、その性質上減らしにくいことから、このまま歳入が増えなければ、ほかの分野へ振り向ける財源の見直しなどが、大きな課題の一つとなります。

投資的経費

道路、公園、学校などを建設する経費をまとめたものです。

平成18年度の決算は145億円で、平成17年度に比べ16億円増加しました。

これは、学校や漁港、廃棄物処理施設などの建設費について、前年度と比べ増加したことが大きな要因です。

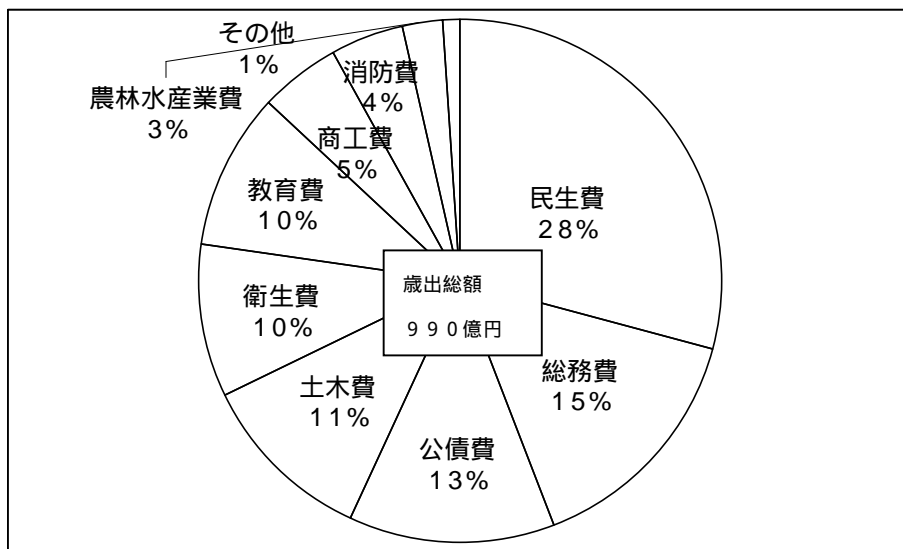
その他の経費

合計で358億円、平成17年度よりも7億円増加しています。

繰出金	84億円
物件費	107億円
補助費等	54億円
積立金	62億円など

(3) どんな目的に使ったの

これからの紹介はどんな目的に使ったのか特徴的なものをまとめてみました。
市役所の仕事がよりイメージしやすくなると思います。



福 祉

生活保護費	75.1億円
(生活に困窮する市民に対しての必要な援助を行うもの)	
私立保育所運営費	37.6億円
(私立保育園の運営にかかった経費)	

環 境

ごみ収集・処理経費	48.1億円
(清掃全般にかかったお金の総額です)	
西部芳世苑建替事業費	5.7億円
(火葬場の施設更新)	

農林水産業

基盤整備促進事業費	0.9億円
(農道の整備に要した経費です。(岩下、赤ノ田、福浦地区))	
地域水産物供給基盤整備事業費	6.2億円
(漁港の整備に要した経費です。(黒島、浅子、宇久地区など))	

商業・観光

中小企業融資事業費	31.1億円
(市内銀行を通じ企業者向けに融資しました)	
観光客誘致促進事業費	1.8億円
(観光コンベンション協会が行うイベントなどへの補助です。)	

土 木

住宅建設・管理経費	14.9億円
(公営住宅全般にかかったお金の総額です)	
道路維持・整備経費	30.0億円
(道路を作ったり、補修した経費です)	

教 育

学校建設費	27.2億円
(小中学校の校舎、プールなどを建設した経費です。)	
少人数指導支援事業費	0.7億円
(少人数指導のための人件費です。)	

その他

議員報酬	3.2億円
(市議会議員の報酬です)	
災害復旧費	5.2億円
(台風などで道路、農地等が被害を受けた時の復旧経費です。)	

(4) 他の都市との比較

人口や産業構造などが似かよった都市をひとくくりにまとめて「類似都市」という言い方をしています。佐世保市は「特例市」という区分で、全国では39の都市がこの区分に属しています。

この区分において佐世保市はどのような位置づけでしょうか。

地方税、経常収支比率、実質公債費比率で比較します。

(ここでは単純に比較しますが、本市は他の特例市と違い、特別に保健所や港湾管理の仕事を受け持っている、経費がかさむ実情もあります)

地方税

地方税は地方公共団体が課税するもので、ここでは市民税や固定資産税など市において課税するものを指します。

佐世保市は39都市の中で悪い方から数えて3番目で、税源がかなり乏しい団体と言えます。

これは、市民税でいえば、地方都市のため、高額所得者が少ない、固定資産税では地価が低い、といったことが要因となっています。

経常収支比率

経常収支比率とは、「市税や地方交付税のように、毎年度経常的に収入されるもののうち、使いみちが特定されず、自由に使うことができる収入（＝経常一般財源）」に対する「人件費や公債費その他の経常的に支出される経費」の割合を示す指標のことです。この割合が高いほど、臨時の支出に対応できる財政的余裕が少ないことになり、いわゆる「硬直的な財政構造」とであるとされています。

佐世保市は39都市の中で良い方から数えて13番目と税収が乏しい団体としてはかなり良好な順位と言えます。

これは上記の市税が少ない中、無駄な投資コストを抑え、堅実な財政運営を行ったため、このような順位となっています。

実質公債費比率

各自治体の実質的な借金の返済にかかる財政負担の程度を客観的に示す指標です。数値が高いほど、借金返済の負担が大きく、財政状況が悪いことを示し、18%以上であれば、地方債の発行に制限がかかります。

佐世保市の実質公債費比率は15.2%となっており、39都市の中では悪い方から数えて19番目となっています。ほぼ真ん中といったところです。今後も大型の建設事業が予定されていることから、この指標が高くなることが予想され、より健全な財政運営が求められています。

このように佐世保市は一部の項目で良好であります。佐世保市が「健康」と言えるのでしょうか？これは、みなさんの健康と同じです。いろんな健康に関する指標～バイタルサイン（血圧、体温、脈拍など）のバランスがとれていることが必要で、一部の指標が良好であるからといって「健康体」と言える訳ではありません。

詳細は「佐世保市財政白書 資料編」に掲載しています。

(5) 佐世保市行財政改革基本指針及び実施計画（集中改革プラン対応版）に掲げる「中期財政見通し」について（見込みと実績の対比について）

本市では、「政策」、「財政」、「運営」が連携し、バランスのとれた行政経営を進めていくため、平成18年9月に「佐世保市行財政改革基本指針及び実施計画（集中改革プラン対応版）」を作成し、将来にわたって安定した行政サービスを提供し続けるための前提となる健全な財政運営に向け、取り組みを進めています。

財政運営を持続していくためには、年ごとに多少の凸凹はあるものの、基本的には毎年の収入（歳入）で毎年の支出（歳出）を賄うということが原則となります。貯金を当てにし、取り崩しを行っているといずれ貯金はなくなってしまう、その後は、行政サービスの急激な縮小あるいは低下が避けられない状況に陥ってしまいます。

そのため、平成18年度から22年度までの中期的な財政見通しを立てて、収支が不足する分については、収入を増やす、支出を減らすという両面から現在のやり方を見直すことで、「貯金の残高を減らさない」ということを財政運営上の目標に掲げています。

平成18年度においては、収入面では、市税、地方交付税合わせて計画額を5億7,800万円上回る一方、支出面では、人件費、扶助費などの義務的経費は18億4,700万円減少するなど計画額に比べ、財政構造の健全性は高くなっています。

目標である貯金（財政調整基金及び減債基金）の残高は計画額に比べ、6億600万円減少していますが、これは借金の一括返済や本来19年度に行う予定の事業を18年度に前倒しで行ったといったような、将来の財政負担を軽くするための費用として8億3,500万円を使ったことによるものです。

したがって、平成18年度においては、実質的な意味において、概ね財政運営上の目標を達成できたものと考えています。

今後も持続可能な財政運営に向け、市役所一体となってこのプランの着
実な実践に努めていきます。

詳細は「佐世保市財政白書 資料編」に掲載しています。